



CDL 設定モードのコマンドリファレンス

- [cdl \(3 ページ\)](#)
- [cdl actions backup \(4 ページ\)](#)
- [cdl actions restore \(5 ページ\)](#)
- [cdl api \(5 ページ\)](#)
- [cdl datastore \(6 ページ\)](#)
- [cdl datastore actions remote-index-sync start \(7 ページ\)](#)
- [cdl datastore actions remote-index-sync start map-id \(8 ページ\)](#)
- [cdl datastore actions remote-index-sync start slice-name \(8 ページ\)](#)
- [cdl datastore actions remote-index-sync status \(8 ページ\)](#)
- [cdl datastore clear sessions \(9 ページ\)](#)
- [cdl datastore clear sessions filter \(9 ページ\)](#)
- [cdl datastore clear sessions in-filter \(10 ページ\)](#)
- [cdl datastore endpoint \(11 ページ\)](#)
- [cdl datastore endpoint settings \(13 ページ\)](#)
- [cdl datastore features index-overwrite-detection unique-keys-prefix \(13 ページ\)](#)
- [cdl datastore features instance-aware-notification \(14 ページ\)](#)
- [cdl datastore features instance-aware-notification system-id \(14 ページ\)](#)
- [cdl datastore features overload-protection \(15 ページ\)](#)
- [cdl datastore features slot-stale-session-detection \(17 ページ\)](#)
- [cdl datastore index \(18 ページ\)](#)
- [cdl datastore kafka \(19 ページ\)](#)
- [cdl datastore kafka describe \(21 ページ\)](#)
- [cdl datastore kafka describe consumer-groups \(22 ページ\)](#)
- [cdl datastore kafka describe topics \(22 ページ\)](#)
- [cdl datastore kafka external-ip \(22 ページ\)](#)
- [cdl datastore kafka label-config \(23 ページ\)](#)
- [cdl datastore kafka list \(23 ページ\)](#)
- [cdl datastore kafka list consumer-groups \(24 ページ\)](#)
- [cdl datastore kafka list topics \(24 ページ\)](#)

- [cdl datastore kafka log-compaction \(24 ページ\)](#)
- [cdl datastore kafka reset-offsets \(25 ページ\)](#)
- [cdl datastore kafka reset-offsets consumer-group \(25 ページ\)](#)
- [cdl datastore kafka ssl-settings \(26 ページ\)](#)
- [cdl datastore metrics \(26 ページ\)](#)
- [cdl datastore mirror-maker \(27 ページ\)](#)
- [cdl datastore overload-protection \(27 ページ\)](#)
- [cdl datastore reset-offsets-dry-run \(28 ページ\)](#)
- [cdl datastore reset-offsets-dry-run consumer-group \(28 ページ\)](#)
- [cdl datastore session features remote-site-connection-monitoring \(29 ページ\)](#)
- [cdl datastore show indexes \(29 ページ\)](#)
- [cdl datastore show sessions count detailed \(30 ページ\)](#)
- [cdl datastore show sessions count detailed filter \(31 ページ\)](#)
- [cdl datastore show sessions count detailed in-filter \(32 ページ\)](#)
- [cdl datastore show sessions count summary \(32 ページ\)](#)
- [cdl datastore show sessions count summary filter \(33 ページ\)](#)
- [cdl datastore show sessions count summary in-filter \(34 ページ\)](#)
- [cdl datastore show sessions detailed \(35 ページ\)](#)
- [cdl datastore show sessions detailed filter \(36 ページ\)](#)
- [cdl datastore show sessions detailed in-filter \(37 ページ\)](#)
- [cdl datastore show sessions summary \(37 ページ\)](#)
- [cdl datastore show sessions summary filter \(39 ページ\)](#)
- [cdl datastore show sessions summary in-filter \(39 ページ\)](#)
- [cdl datastore show status \(40 ページ\)](#)
- [cdl datastore slot \(41 ページ\)](#)
- [cdl datastore slot notification \(42 ページ\)](#)
- [cdl datastore slot notification metrics \(44 ページ\)](#)
- [cdl datastore zookeeper \(45 ページ\)](#)
- [cdl label-config \(46 ページ\)](#)
- [cdl label-config endpoint \(47 ページ\)](#)
- [cdl label-config index map \(47 ページ\)](#)
- [cdl label-config slot map \(48 ページ\)](#)
- [cdl logging \(48 ページ\)](#)
- [cdl logging logger \(49 ページ\)](#)
- [cdl remote-site \(50 ページ\)](#)
- [cdl remote-site db-endpoint \(50 ページ\)](#)
- [cdl remote-site kafka-server \(51 ページ\)](#)
- [cdl ssl-config \(51 ページ\)](#)
- [cdl ssl-config certs \(52 ページ\)](#)

cdl

次世代の Cisco Data Layer (CDL) を設定します。

コマンド モード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl { datastore datastore_name { cluster-id cluster_id | { { endpoint {
external-ip ipv4_address | external-port port_number } | index { map
index_partitions | write-factor write_factor } | slot { map slot_partitions |
notification { host host_name | limit notification_tps | port
notification_server_port } | write-factor write_factor } } { go-debug go_debug
| patch-url patch_url | replica ha_instances } | geo-remote-site list } } |
deployment-model { large | small } | enable-geo-replication { false |
true } | kafka { enable-JMX-metrics { false | true } | enable-persistence
{ false | true } | external-ip { ipv4_address port_number } | replica
ha_instances | retention-size data_retention_size | retention-time
data_retention_time | storage data_storage_size } | logging { {
default-log-level | logger cdl_module_name level default_log_level } | node-type
k8s_node_label_value | remote-site system_id { db-endpoint { host
db_endpoint_hostname | port db_endpoint_port_number } | kafka-server { host port
} } | system-id system_id | zookeeper { data-storage-size data_storage_size
| { enable-JMX-metrics | enable-persistence } { false | true } |
log-storage-size log_storage_size | replica ha_instances } } }
```

deployment-model *deployment_model*

k8sデプロイメントのリソース要件を指定します。デフォルト値はlargeです。注：実稼働環境では、常に大規模導入モデルを使用する必要があります。

次のいずれかである必要があります。

- large
- small

enable-geo-replication { false | true }

Geo レプリケーションを有効にするか無効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

node-type *k8s_node_label_value*

アフィニティの K8s ノードのラベル値を指定します。

0 ～ 64 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値：

system-id *system_id*

デプロイメントシステム ID を指定します。

整数である必要があります。

デフォルト値は 1 です。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、デプロイメントの CDL パラメータを設定します。CDL コンテナが設定されていない場合、CDL チャートは展開されません。

cdl actions backup

バックアッププロセスをトリガーします。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl actions backup start [ concurrency-factor concurrency_factor |
created-before timestamp | slice-name slice_name ]
```

concurrency-factor *concurrency_factor*

スロットから同時にデータを取得してバックアップを取ります。デフォルトでは、一度にクエリされるスロットは 1 つだけです。

concurrency_factor は、1 ～ 8 の範囲の整数である必要があります。

created-before *timestamp*

このタイムスタンプより前に作成されたレコードのバックアップを取ります。タイムスタンプは CCYY-MM-DDTHH:MM:SS 形式にする必要があります。

デフォルトでは、使用可能なすべてのデータがバックアップのためにクエリされます。

slice-name *slice_name*

指定したスライス名のバックアップを取ります。ここでは、設定したスライス名のみ渡すことができます。

デフォルトでは、すべてのスライス名のバックアップを取ります。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するとバックアッププロセスがトリガーされますが、プロセスが完了するまで待機はしません。作成されたダンプファイル名とともに成功または失敗のメッセージを返します。バックアッププロセスが完了すると、復元プロセスのために出力のダンプファイルを収集または参照できます。このファイルは、**cdl-api-0** ポッドを実行しているノードの `/data/<namespace>/data-cdl-api-0/<file-name.dump>` に配置できます。

このコマンドを実行すると、これにより **CDL** バックアッププロセスがトリガーされます。よろしいですか? という警告が表示されます。**yes** と入力して、CDL バックアッププロセスのトリガーを続行します。

cdl actions restore

復元プロセスをトリガーします。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl actions restore { start file filename | status }
```

start file *filename*

このキーワードの設定は必須です。

ファイル名には **.dump** 拡張子が付いている必要があります。ファイルは、**cdl-api-0** ポッドを実行しているノードの、ホストパス **/data/<namespace>/data-cdl-api-0/<file-name.dump>** に存在する必要があります。

status

復元プロセスのステータスを次のいずれかのオプションで表示します。

次のいずれかである必要があります。

- **idle | completed** : CDL 復元プロセスが完了した、または進行中ではない
- **in-progress** : CDL 復元プロセスが進行中である

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると復元プロセスがトリガーされますが、プロセスが完了するまで待機はしません。成功または失敗のメッセージが返されます。このコマンドでファイルパラメータを設定する必要があります

このコマンドを実行すると、これにより **CDL** 復元プロセスがトリガーされ、既存のデータが上書きされます。よろしいですか? という警告が表示されます。**yes** と入力して、CDL 復元プロセスのトリガーを続行します。

cdl api

CDL API 設定を有効にします。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl api [ deploy { false | true } | cpu-limit cpu_limit | go-max-procs  
cpu_cores | memory-limit memory_limit | storage storage_size ]
```

deploy { false | true }

API ポッドのデプロイメントを有効または無効にします。

デフォルト : **false**

cpu-limit *cpu_limit*

最大 CPU 制限を指定します。*cpu_limit* は 1000 ～ 8000 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト : 4000

go-max-procs *cpu_cores*

CPU コアの最大数を指定します。*cpu_cores* は 1 ～ 32 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト : 4

memory-limit *memory_limit*

許可される最大メモリを Gi 単位で指定します。*memory_limit* は 1 ～ 8 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト : 4

storage *storage_size*

バックアップストレージを GB 単位で指定します。*storage_size* は 1 ～ 200 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト : 90

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、CDL API 設定にアクセスします。CDL API を設定するために、CDL データストアが設定されていることを確認します。

cdl datastore

展開するデータストアのリストを設定します。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl datastore datastore_name { advanced-config-profile profile_name |
cluster-id cluster_id | copies-per-node copies_per_node | label-config
label_config | { { endpoint { external-ip ipv4_address | external-port
port_number } | index { map index_partitions | write-factor write_factor } |
slot { map slot_partitions | notification { host host_name | limit
notification_tps | port notification_server_port } | write-factor write_factor }
} { go-debug go_debug | patch-url patch_url | replica ha_instances } } |
geo-remote-site list }
```

advanced-config-profile *profile_name*

詳細設定パラメータのプロファイル名を指定します。

cluster-id *cluster_id*

K8s クラスタ ID を指定します。

1 〜 10 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 1 です。

find-by-nuk-prefixes *key_prefix*

findbyNonUniqueKey API をサポートするように事前設定された非一意のキープレフィックスのリストを指定します

1 〜 20 文字の文字列である必要があります。

geo-remote-site *list*

Geo レプリケーションサイトのリストを指定します。

label-config *label_config*

ラベル設定名を指定します。

slice-names *slice_names_list*

スライス名のリストを指定します。

1 〜 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は session です。

datastore_name

データストアの名前を指定します。

1 〜 16 文字の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、展開するデータストアのリストを設定します。
このコマンドで最大 10 の要素を設定できます。

cdl datastore actions remote-index-sync start

インデックスのリモートピアとの同期を開始します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

actions remote-index-sync start

使用上のガイドライン インデックスをリモートピアとともに調整します。このコマンドを使用して、インデックスのリモートピアとの同期を開始します。

cdl datastore actions remote-index-sync start map-id

インデックスマップ ID のリストのリモート同期をトリガーします。

コマンドモード EXEC

構文の説明 `actions remote-index-sync map-id map index_name`

map index_map

インデックスマップのリモートインデックス同期のトリガーを指定します。

整数である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、インデックスマップ ID のリストのリモート同期をトリガーします。デフォルトでは、すべてのインデックスマップがトリガーされます。

このコマンドで最大 5 つの要素を設定できます。

cdl datastore actions remote-index-sync start slice-name

スライス名のリストのリモート同期をトリガーします。

コマンドモード EXEC

構文の説明 `actions remote-index-sync slice-name slice slice_name`

slice slice_name

指定すると、スライス名のリモートインデックス同期をトリガーします。

文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、スライス名のリストのリモート同期をトリガーします。デフォルトでは、すべてのスライス名がトリガーされます。

cdl datastore actions remote-index-sync status

リモートピアとまだ同期しているインデックスインスタンスを表示します。

コマンドモード EXEC

構文の説明 `cdl show status`

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、リモートピアとまだ同期しているインデックスインスタンスのカンマ区切りリストを表示します。

cdl datastore clear sessions

すべてのデータストアセッションデータをクリアします。

コマンドモード EXEC

構文の説明 `cdl clear sessions [ db-name db_name | filter { condition query_expression key query_string } | map-id map_id ]`

db-name db_name

クエリする DB の名前を指定します。

1 ～ 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は session です。

map-id map_id

マップからデータをクエリするためのマップ ID を指定します。

0 ～ 1024 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 0 です。

slice-name slice_name

クエリするスライス名を指定します。

1 ～ 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は session です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、すべてのデータストアセッションデータをクリアします。これにより、一部またはすべてのレコードが完全に削除される可能性があることに注意してください。

cdl datastore clear sessions filter

クエリに使用する AND フィルタパラメータを設定します。

コマンドモード EXEC

構文の説明 `filter { condition query_expression key query_string } | map-id map_id | limit number_of_records | purge-on-eval { false | true } | next-eval-start-time next_eval_start_time | next-eval-end-time next_eval_end_time`

condition *query_expression*

AND フィルタでクエリ式を指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **contains**
- **ends-with**
- **match**
- **not-contains**
- **not-ends-with**
- **not-match**
- **not-starts-with**
- **starts-with**

key *query_string*

クエリ文字列を指定します。

0 ～ 512 文字の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、クエリに使用するフィルタパラメータを設定します。

cdl datastore clear sessions in-filter

クエリに使用する OR フィルタパラメータを設定します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
filter { condition query_expression key query_string } | map-id map_id | limit number_of_records | purge-on-eval { false | true } | next-eval-start-time next_eval_start_time | next-eval-end-time next_eval_end_time
```

condition *query_expression*

OR フィルタでクエリ式を指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **contains**
- **ends-with**
- **match**
- **not-contains**
- **not-ends-with**

- **not-match**
- **not-starts-with**
- **starts-with**

key *query_string*

クエリ文字列を指定します。

0 ～ 512 文字の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、クエリに使用するフィルタパラメータを設定します。

cdl datastore endpoint

エンドポイントポッドのパラメータを設定します。

コマンド モード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl datastore datastore_name endpoint { go-debug go_debug_variables | patch-url
patch_url | replica ha_instances }
```

copies-per-node *copies_per_node*

ノードごとに cdl-endpoint ポッドのコピーを指定します。

1 ～ 4 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 1 です。

cpu-limit *max_cpu*

許容される最大 CPU をミリ CPU 単位で指定します。

200 ～ 32000 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 4000 です。

cpu-request *min_cpu*

必要な最小 CPU をミリ CPU 単位で指定します。

100 ～ 16000 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 2000 です。

external-ip *ipv4_address*

サービスを外部に公開する IPv4 アドレスのリストを指定します。

external-ip *ipv6_address*

サービスを外部に公開する IPv6 アドレスのリストを指定します。

external-port *port_number*

外部トラフィックに公開するポート番号を指定します。

デフォルト値は 8882 です。

go-debug *go_debug_variables*

GO デバッグ変数のカンマ区切りリストを指定します。

文字列である必要があります。

go-max-procs *max_cpu*

同時に使用する CPU コアの最大数を指定します。

1 ～ 32 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 4 です。

memory-limit *max_memory*

許容される最大メモリをメガバイト (MB) 単位で指定します。

512 ～ 131072 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 131072 です。

memory-request *min_memory*

必要な最小メモリをメガバイト (MB) 単位で指定します。

256 ～ 65536 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 256 です。

patch-url *patch_url*

データストア アプリケーションのパッチをダウンロードするための URL を指定します。

文字列である必要があります。

replica *ha_instances*

作成する HA インスタンスの数を指定します。

1 ～ 16 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 2 です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、エンドポイントポッドのパラメータを設定します。

cdl datastore endpoint settings

このコマンドは廃止されました。CD エンドポイントのパラメータを設定します。

コマンド モード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
settings index-timeout-ms index_timeout slot-timeout-ms slot_timeout
remote-ep-connection-count remote_ep_connection_count
```

index-timeout-ms *index_timeout*

このキーワードは廃止されます。インデックス操作のタイムアウト期間をミリ秒単位で指定します。

25 ～ 5000 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 200 です。

remote-ep-connection-count *remote_ep_connection_count*

このキーワードは廃止されます。GRPC レプリケーションのリモートサイト CDL エンドポイントへの接続数を指定します。

1 ～ 20 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 4 です。

slot-timeout-ms *slot_timeout*

このキーワードは廃止されます。スロット操作のタイムアウト時間をミリ秒単位で指定します。

25 ～ 5000 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 375 です。

使用上のガイドライン

このコマンドは廃止されました。このコマンドを使用して、CDL エンドポイントパラメータを設定します。

cdl datastore features index-overwrite-detection unique-keys-prefix

CDL オーバーロード防止設定を行います。

コマンド モード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
index-overwrite-detection unique-keys-prefix { action index_overwrite_action
| key-prefix key_prefix | max-tps max_tps | queue-size queue_size }
```

action *index_overwrite_action*

インデックスの上書き検出時に実行するアクションを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **delete-record**
- **log-record**
- **notify-record**

key-prefix *key_prefix*

上書き検出の一意のキーのプレフィックスパターンを指定します。

文字列である必要があります。

使用上のガイドライン

インデックスキーは、検出設定を上書きします。このコマンドを使用して、インデックス上書き検出用の **uniqueKey** プレフィックスのリストと、検出時に実行するアクションを設定します。

cdl datastore features instance-aware-notification

Geo レプリケーションのインスタンス認識設定を行います。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
features instance-aware-notification enable { false | true }
```

```
enable { false | true }
```

スライスのインスタンス状態チェックを有効にするかどうかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **false**
- **true**

デフォルト値は **false** です。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、Geo レプリケーションのインスタンス認識設定を行います。

cdl datastore features instance-aware-notification system-id

sliceNames への systemID のマッピングを設定します。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
system-id is system_id slice-names slice_names
```

id *system_id*

システム/サイト ID を指定します。

整数である必要があります。

slice-names *slice_names*

systemID に関連付けられているスライス名のリストを指定します。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、sliceNames への systemID のマッピングを設定します。

cdl datastore features overload-protection

CDL オーバーロード防止設定を行います。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl datastore overload-protection disable { false | true } |  
critical-alert-threshold critical_alert_threshold | hard-limit-percentage  
hard_limit_percentage | index-record-capacity-count index_record_capacity_count  
| major-alert-threshold major_alert_threshold | slot-record-capacity-bytes  
slot_record_capacity | slot-record-capacity-count slot_record_capacity_count
```

enable { **false** | **true** }

オーバーロード防止を無効にするか有効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **false**
- **true**

デフォルト値は **false** です。

index-max-record-count *index_max_record_count*

インデックスシャードに保存できるレコードの最大数を指定します。

整数である必要があります。

100 ~ 1000 または 100000 ~ 100000000 の範囲の整数である必要があります

デフォルト値は 60000000 です。

enable { **false** | **true** }

オーバーロード防止を無効にするか有効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

index-max-record-count *index_max_record_count*

インデックスシャードに保存できるレコードの最大数を指定します。

整数である必要があります。

slot-max-record-count *slot_max_record_count*

スロットシャードに保存できるレコードの最大数を指定します。

整数である必要があります。

100 ～ 1000 または 100000 ～ 100000000 の範囲の整数である必要があります

デフォルト値は 2500000 です。

critical-alert-threshold *critical_alert_threshold*

CDL がアラート `cdlOverloaded-critical` をトリガーする必要があるしきい値をパーセンテージで指定します。major-alert-threshold は critical-alert-threshold よりも小さくする必要があります。

40 ～ 100 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 90 です。

enable { false | true }

オーバーロード防止を無効にするか有効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

hard-limit-percentage *hard_limit_percentage*

ソフト制限に加えて、追加のキャパシティのパーセンテージを指定します。

0 ～ 10 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 5 です。

index-max-record-count *index_max_record_count*

インデックスシャードに保存できるレコードの最大数を指定します。

整数である必要があります。

major-alert-threshold *major_alert_threshold*

CDL がアラート `cdlOverloaded-major` をトリガーする必要があるしきい値をパーセンテージで指定します。`major-alert-threshold` は `critical-alert-threshold` よりも小さくする必要があります。

40 ～ 100 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 80 です。

slot-max-record-count *slot_max_record_count*

スロットシャードに保存できるレコードの最大数を指定します。

整数である必要があります。

slot-max-size *slot_max_size*

スロットシャードの最大サイズをメガバイト単位で指定します。

1024 ～ 98304 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 16384 です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、CDL オーバーロード防止設定を行います。

cdl datastore features slot-stale-session-detection

古いスロットレコードの検出パラメータを設定します。

コマンド モード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

slot-stale-session-detection disable-auto-deletion { false | true }

disable-auto-deletion { false | true }

古いスロットレコードの自動削除を無効にするか有効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

notification-retry-count *notification_retry_count*

アプリケーションから更新を受信せずにアプリケーションに送信するタイマー切れ通知の最小再試行回数を指定します。「notification-retry-count」の回数を超えても更新を受信しない場合、CDL はスロットレコードが古いかどうかのチェックに進みます。

3 ～ 10 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 3 です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、古いスロットレコードの検出パラメータを設定します。

cdl datastore index

インデックスポッドのパラメータを設定します。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl datastore datastore_name index { map index_partitions | write-factor write_factor | go-debug go_debug | patch-url patch_url | replica ha_instances }
```

cpu-limit *max_cpu*

許容される最大 CPU をミリ CPU 単位で指定します。

200 ～ 32000 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 4000 です。

cpu-request *min_cpu*

必要な最小 CPU をミリ CPU 単位で指定します。

100 ～ 16000 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 2000 です。

go-debug *go_debug_variables*

GO デバッグ変数のカンマ区切りリストを指定します。

文字列である必要があります。

go-max-procs *max_cpu*

同時に使用する CPU コアの最大数を指定します。

1 ～ 32 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 4 です。

map *index_partitions*

インデックス用に作成するパーティションの数を指定します。

1 ～ 1024 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 1 です。

memory-limit *max_memory*

許容される最大メモリをメガバイト (MB) 単位で指定します。

512 ～ 131072 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 131072 です。

memory-request *min_memory*

必要な最小メモリをメガバイト (MB) 単位で指定します。

256 ～ 65536 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 256 です。

patch-url *patch_url*

データストア アプリケーションのパッチをダウンロードするための URL を指定します。

文字列である必要があります。

replica *replicas*

作成する HA インスタンスの数を指定します。

1 ～ 2 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 2 です。

write-factor *write_factor*

このキーワードは廃止されました。正常な応答の前にインデックスに書き込まれるコピーの数を指定します。

0 ～ 2 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 2 です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、インデックスポッドのパラメータを設定します。

cdl datastore kafka

Geo レプリケーション用の Kafka を設定します。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl kafka { enable-JMX-metrics { false | true } | enable-persistence {
  false | true } | external-ip { ipv4_address port_number } | replica
ha_instances | retention-size retention_size | retention data_retention_period |
  storage data_storage_size | log-level { debug | error | fatal | info |
trace | warn } }
```

enable-JMX-metrics { false | true }

JMX メトリックを有効にするか無効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **false**
- **true**

デフォルト値は **true** です。

enable-persistence { false | true }

Kafka データの永続性を有効にするか無効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **false**
- **true**

デフォルト値は **false** です。

log-level

Kafka のロギングレベルを指定します。ロギングレベルには、**[debug]**、**[error]**、**[fatal]**、**[info]**、**[trace]**、**[warn]** があります。ここで指定された変更は、Zookeeper ポッドのローリング再起動をトリガーします。

次のいずれかである必要があります。

- **debug**
- **error**
- **fatal**
- **info**
- **trace**
- **warn**

partition *number_of_partitions*

トピックごとのパーティションの数を指定します。

1 ～ 1024 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 1 です。

replica *ha_instances*

作成する HA インスタンスの数を指定します。

1 ～ 16 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 2 です。

デフォルト値は 2 です。

retention-size *retention_size*

このキーワードは廃止されます。データ保持サイズを MB 単位で指定します。

1024 ～ 1048576 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 5120 です。

retention-time *data_retention_period*

データ保持期間を時間単位で指定します。

1 から 168 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 12 です。

storage *data_storage_size*

Kafka データのストレージサイズを GB 単位で指定します。

1 ～ 64 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 20 です。

to-earliest

指定すると、並列ポッド管理ポリシーが有効になります。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

total-retention-size *total_retention_size*

データの合計保持サイズを MB 単位で指定します。

10240 ～ 1048576 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 65536 です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、Geo レプリケーション用の Kafka を設定します。

cdl datastore kafka describe

Kafka コンシューマグループについて説明します。デフォルトでは、すべての Kafka コンシューマグループについて説明されています。

コマンドモード EXEC

構文の説明

```
cdl kafka describe { consumer-groups name group_name | topics {
include-internal-topics | name kafka-topic_name } }
```

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、Kafka コンシューマグループについて説明します。

cdl datastore kafka describe consumer-groups

Kafka コンシューマグループについて説明します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
cdl kafka describe consumer-groups name group_name
```

group name *group_name*

Kafka コンシューマグループ名を指定します。

パターン `[a-zA-Z0-9._-]+` の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、すべての Kafka コンシューマグループを一覧表示します。デフォルトの動作では、すべてのコンシューマグループが記述されます。

cdl datastore kafka describe topics

Kafka のトピックについて説明します。デフォルトでは、内部以外のすべてのトピックについて説明します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
cdl kafka describe topics { include-internal-topics | name kafka_topic_name
}
```

include-internal-topics

内部の Kafka トピックを含めるかどうかを指定します。

topic *kafka-topic_name*

Kafka トピック名を指定します。

パターン `[a-zA-Z0-9._-]+` の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、Kafka トピックを説明します。

cdl datastore kafka external-ip

外部サーバーに公開する IP を設定します。

コマンドモード	[Exec] > [Global Configuration]
構文の説明	<pre>cdl kafka external-ip <i>ipv4_address</i> port <i>port_number</i> ssl-port <i>ssl_port_number</i></pre> ip <i>IPv4_address</i> Kafkaサーバーがクライアントのトラフィックをリッスンするための IPv4 アドレスを指定します。 port <i>port_number</i> 外部トラフィックに公開するポートアドレスを指定します。 ssl-port <i>ssl-port_address</i> 外部トラフィックに公開する ssl-port アドレスを指定します。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、外部サーバーに公開する IP を設定します。

cdl datastore kafka label-config

Kafka ポッドのラベル設定を行います。

コマンドモード	[Exec] > [Global Configuration]
構文の説明	<pre>cdl kafka label-config key <i>label_key</i> value <i>label_value</i></pre> key <i>label_key</i> ラベルキーを指定します。 文字列である必要があります。 value <i>label_value</i> ラベル値を指定します。 文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、Kafka ポッドのラベル設定を行います。

cdl datastore kafka list

すべての kafka トピックを表示します。デフォルトでは、リストに内部トピックは含まれていません。

コマンドモード	EXEC
---------	------

構文の説明

```
cdl kafka list { consumer-groups name group_name | topics {
include-internal-topics | name kafka-topic_name } }
```

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、すべての Kafka トピックを表示します。

cdl datastore kafka list consumer-groups

すべての Kafka コンシューマグループを表示します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
cdl kafka list consumer-groups name group_name
```

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、すべての Kafka コンシューマグループを表示します。

cdl datastore kafka list topics

すべての Kafka トピックを表示します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
cdl kafka list topics include-internal-topics
```

```
include-internal-topics
```

内部 Kafka トピックを含めるかどうかを指定します。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、すべての Kafka トピックを表示します。

cdl datastore kafka log-compaction

Kafka ログの圧縮パラメータを設定します。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl kafka log-compaction disable { false | true } delete-retention-ms
delete_retention_period
```

```
delete-retention-ms delete_retention_period
```

ログの圧縮されたトピックの削除を保持する期間をミリ秒単位で指定します。

60000 ～ 172800000 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 43200000 です。

disable { false | true }

Kafka ログの圧縮を無効にするか有効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、Kafka ログの圧縮パラメータを設定します。

cdl datastore kafka reset-offsets

Kafka コンシューマグループのすべてのトピックのオフセットをリセットします。コンシューマグループのオフセットは、グループが非アクティブの場合にのみ設定できます。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
cdl kafka reset-offsets { consumer-group name group_name | to-earliest name group_name | to-latest name group_name }
```

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、Kafka コンシューマグループのすべてのトピックのオフセットをリセットします。

cdl datastore kafka reset-offsets consumer-group

すべてのトピックの Kafka コンシューマグループのオフセットをリセットします。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
cdl kafka reset-offsets consumer-group name group_name
```

consumer-group name group_name

Kafka コンシューマグループを指定します。

パターン [a-zA-Z0-9._-]+ の文字列である必要があります。

to-earliest

指定すると、オフセットが最も古いものにリセットされます。

to-latest

指定すると、オフセットが最新のものにリセットされます。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、すべてのトピックの Kafka コンシューマグループのオフセットをリセットします。

cdl datastore kafka ssl-settings

Kafka SSL の設定を行います。

コマンドモード [Exec] > [Global Configuration]

構文の説明 `cdl kafka ssl-settings enable-ssl { false | true }
disable-host-name-verification { false | true }`

disable-host-name-verification { false | true }

Kafka ブローカ間の SSL 通信時にホスト名の検証を無効にするか有効にするかを指定します。
次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

enable-ssl { false | true }

Kafka ブローカ間の SSL 通信を無効にするか有効にするかを指定します。
次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、Kafka SSL の設定を行います。

cdl datastore metrics

メトリックの詳細レベルを設定します。

コマンドモード [Exec] > [Global Configuration]

構文の説明 `cdl datastore datastore_name { metrics { verbosity { debug | production } } }`

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、メトリックの詳細レベルを設定します。

cdl datastore mirror-maker

Kafka MirrorMaker を設定します。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl mirror-maker { enable-JMX-metrics { false | true } | log-level {
debug | error | fatal | info | trace | warn } }
```

enable-JMX-metrics { false | true }

JMX メトリックを有効にするか無効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **false**
- **true**

デフォルト値は **true** です。

log-level { debug | error | fatal | info | trace | warn }

Kafka MirrorMaster のロギングレベルを指定します。注：この変更により、MirrorMaker ポッドの再起動がトリガーされます。

次のいずれかである必要があります。

- **debug**
- **error**
- **fatal**
- **info**
- **trace**
- **warn**

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、Kafka MirrorMaker を設定します。

cdl datastore overload-protection

このコマンドは廃止されました。CDL オーバーロード防止設定を行います。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl datastore overload-protection disable { false | true } |
critical-alert-threshold critical_alert_threshold | hard-limit-percentage
hard_limit_percentage | index-record-capacity-count index_record_capacity_count
```

```
| major-alert-threshold major_alert_threshold | slot-record-capacity-bytes
slot_record_capacity | slot-record-capacity-count slot_record_capacity_count
```

disable { false | true }

このキーワードは廃止されます。オーバーロード防止を無効にするか有効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **false**
- **true**

デフォルト値は **false** です。

使用上のガイドライン このコマンドは廃止されました。このコマンドを使用して、CDL オーバーロード防止設定を行います。

cdl datastore reset-offsets-dry-run

コンシューマグループで変更を実行せずに **reset-offsets** の結果を表示します。

コマンドモード EXEC

構文の説明 **cdl kafka reset-offsets-dry-run { consumer-group name *group_name* | to-earliest name *group_name* | to-latest name *group_name* }**

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、コンシューマグループで変更を実行せずに **reset-offsets** の結果を表示します。

cdl datastore reset-offsets-dry-run consumer-group

すべてのトピックの Kafka コンシューマグループのオフセットをリセットします。

コマンドモード EXEC

構文の説明 **cdl kafka reset-offsets-dry-run consumer-group name *group_name***

consumer-group name *group_name*

Kafka コンシューマグループを指定します。

パターン **[a-zA-Z0-9._-]+** の文字列である必要があります。

to-earliest

指定すると、オフセットが最も古いものにリセットされます。

to-earliest

指定すると、オフセットが最新のものにリセットされます。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、すべてのトピックの Kafka コンシューマグループのオフセットをリセットします。

cdl datastore session features remote-site-connection-monitoring

CDL エンドポイントのリモートサイト接続（レプリケーション接続と内部運用接続）を設定します。

コマンドモード [Exec] > [Global Configuration]

構文の説明 `features remote-site-connection-monitoring enable { false | true }`

`enable { false | true }`

リモートサイトのモニタリングを有効にするか無効にするかを指定します。この機能は、デフォルトで有効化されています。

次のいずれかである必要があります。

- `false`
- `true`

デフォルト値：`true`

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、CDL エンドポイントのリモートサイト接続を設定します。

cdl datastore show indexes

セッションインデックス情報を表示します。

コマンドモード EXEC

構文の説明 `show indexes all-replicas { false | true } | db-name db_name | key key | limit max_indexes | map-id map_id ]`

`all-replicas { false | true }`

すべてのレプリカからインデックスを取得するかどうかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- `false`

- true

デフォルト値は false です。

db-name *db_name*

クエリする DB の名前を指定します。

1 ～ 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は session です。

key *key*

キー：クエリ値（uk/pk）を指定します。

0 ～ 512 文字の文字列である必要があります。

limit *max_indexes*

表示するインデックスの最大数を指定します。

1 ～ 1000 の範囲の整数である必要があります。

map-id *map_id*

インデックスが保存されているマップからデータをクエリするためのマップIDを指定します。

0 ～ 1024 の範囲の整数である必要があります。

slice-name *slice_name*

クエリするスライス名を指定します。

1 ～ 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は session です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、セッションインデックス情報を表示します。

cdl datastore show sessions count detailed

セッション数の詳細情報を表示します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
cdl show sessions count detailed [ db-name db_name | filter { condition  
query_expression key query_string } | limit number_of_records | map-id map_id ]
```

db-name *db_name*

クエリする DB の名前を指定します。

1 ～ 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は `session` です。

map-id *map_id*

マップからデータをクエリするためのマップ ID を指定します。

0 ～ 1024 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 0 です。

slice-name *slice_name*

クエリするスライス名を指定します。

1 ～ 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は `session` です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、セッション数の詳細情報を表示します。

cdl datastore show sessions count detailed filter

クエリに使用する AND フィルタパラメータを設定します。

コマンド モード EXEC

構文の説明

```
filter { condition query_expression key query_string } | map-id map_id | limit
number_of_records | purge-on-eval { false | true } | next-eval-start-time
next_eval_start_time | next-eval-end-time next_eval_end_time
```

condition *query_expression*

AND フィルタでクエリ式を指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **contains**
- **ends-with**
- **match**
- **not-contains**
- **not-ends-with**
- **not-match**
- **not-starts-with**
- **starts-with**

key *query_string*

クエリ文字列を指定します。

0 ～ 512 文字の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、クエリに使用するフィルタパラメータを設定します。

cdl datastore show sessions count detailed in-filter

クエリに使用する OR フィルタパラメータを設定します。

コマンドモード EXEC

構文の説明

```
filter { condition query_expression key query_string } | map-id map_id | limit
number_of_records | purge-on-eval { false | true } | next-eval-start-time
next_eval_start_time | next-eval-end-time next_eval_end_time
```

condition *query_expression*

OR フィルタでクエリ式を指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **contains**
- **ends-with**
- **match**
- **not-contains**
- **not-ends-with**
- **not-match**
- **not-starts-with**
- **starts-with**

key *query_string*

クエリ文字列を指定します。

0 ～ 512 文字の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、クエリに使用するフィルタパラメータを設定します。

cdl datastore show sessions count summary

サマリーセッション数の情報を表示します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
cdl show sessions count summary [ db-name db_name | filter { condition query_expression key query_string } | limit number_of_records | map-id map_id ]
```

db-name *db_name*

クエリする DB の名前を指定します。

1 〜 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は `session` です。

map-id *map_id*

マップからデータをクエリするためのマップ ID を指定します。

0 〜 1024 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 0 です。

slice-name *slice_name*

クエリするスライス名を指定します。

1 〜 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は `session` です。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、サマリーセッション数の情報を表示します。

cdl datastore show sessions count summary filter

クエリに使用する AND フィルタパラメータを設定します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
filter { condition query_expression key query_string } | map-id map_id | limit number_of_records | purge-on-eval { false | true } | next-eval-start-time next_eval_start_time | next-eval-end-time next_eval_end_time
```

condition *query_expression*

AND フィルタでクエリ式を指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **contains**
- **ends-with**
- **match**
- **not-contains**

- not-ends-with
- not-match
- not-starts-with
- starts-with

key *query_string*

クエリ文字列を指定します。

0 ～ 512 文字の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、クエリに使用するフィルタパラメータを設定します。

cdl datastore show sessions count summary in-filter

クエリに使用する OR フィルタパラメータを設定します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
filter { condition query_expression key query_string } | map-id map_id | limit
number_of_records | purge-on-eval { false | true } | next-eval-start-time
next_eval_start_time | next-eval-end-time next_eval_end_time
```

condition *query_expression*

OR フィルタでクエリ式を指定します。

次のいずれかである必要があります。

- contains
- ends-with
- match
- not-contains
- not-ends-with
- not-match
- not-starts-with
- starts-with

key *query_string*

クエリ文字列を指定します。

0 ～ 512 文字の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、クエリに使用するフィルタパラメータを設定します。

cdl datastore show sessions detailed

セッションの詳細をデータとともに表示します。

構文の説明

```
cdl show detailed [ db-name db_name | filter { condition query_expression key query_string } | limit number_of_records | map-id map_id ]
```

コマンドモード

EXEC

db-name *db_name*

クエリする DB の名前を指定します。

1 ～ 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は session です。

limit *number_of_records*

表示するレコードの最大数を指定します。

1 ～ 500 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 100 です。

map-id *map_id*

マップからデータをクエリするためのマップ ID を指定します。

0 ～ 1024 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 0 です。

max-data-size-kb *max_data_size*

レコードごとに表示する最大データサイズを指定します。データサイズがこのパラメータより大きい場合、出力は切り捨てられます。

1 ～ 32 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 4 です。

next-eval-end-time *next_eval_end_time*

next-eval-time がこの時間より短いセッション。

next-eval-start-time *next_eval_start_time*

next-eval-time がこの時間より長いセッション。

purge-on-eval { false | true }

purge-on-eval フラグが false または true に設定されているセッション。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

slice-name *slice_name*

クエリするスライス名を指定します。

1 ～ 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は session です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、セッションの詳細をデータとともに表示します。

cdl datastore show sessions detailed filter

クエリに使用する AND フィルタパラメータを設定します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
filter { condition query_expression key query_string } | map-id map_id | limit
number_of_records | purge-on-eval { false | true } | next-eval-start-time
next_eval_start_time | next-eval-end-time next_eval_end_time
```

condition *query_expression*

AND フィルタでクエリ式を指定します。

次のいずれかである必要があります。

- contains
- ends-with
- match
- not-contains
- not-ends-with
- not-match
- not-starts-with
- starts-with

key *query_string*

クエリ文字列を指定します。

0 ～ 512 文字の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、クエリに使用するフィルタパラメータを設定します。

cdl datastore show sessions detailed in-filter

クエリに使用する OR フィルタパラメータを設定します。

コマンド モード EXEC

構文の説明

```
filter { condition query_expression key query_string } | map-id map_id | limit
number_of_records | purge-on-eval { false | true } | next-eval-start-time
next_eval_start_time | next-eval-end-time next_eval_end_time
```

condition *query_expression*

OR フィルタでクエリ式を指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **contains**
- **ends-with**
- **match**
- **not-contains**
- **not-ends-with**
- **not-match**
- **not-starts-with**
- **starts-with**

key *query_string*

クエリ文字列を指定します。

0 ～ 512 文字の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、クエリに使用するフィルタパラメータを設定します。

cdl datastore show sessions summary

データを含まないセッションの詳細を表示します。

構文の説明

```
cdl show sessions summary [ db-name db_name | filter { condition
query_expression key query_string } | limit number_of_records | map-id map_id ]
```

コマンドモード

EXEC

db-name *db_name*

クエリする DB の名前を指定します。

1 ～ 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は session です。

limit *number_of_records*

表示するレコードの最大数を指定します。

1 ～ 500 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 100 です。

map-id *map_id*

マップからデータをクエリするためのマップ ID を指定します。

0 ～ 1024 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 0 です。

max-data-size-kb *max_data_size*

レコードごとに表示する最大データサイズを指定します。データサイズがこのパラメータより大きい場合、出力は切り捨てられます。

1 ～ 32 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 4 です。

next-eval-end-time *next_eval_end_time*

next-eval-time がこの時間より短いセッション。

next-eval-start-time *next_eval_start_time*

next-eval-time がこの時間より長いセッション。

purge-on-eval { false | true }

purge-on-eval フラグが false または true に設定されているセッション。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

slice-name *slice_name*

クエリするスライス名を指定します。

1 ～ 16 文字の文字列である必要があります。

デフォルト値は session です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、データを含まないセッションの詳細を表示します。

cdl datastore show sessions summary filter

クエリに使用する AND フィルタパラメータを設定します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
filter { condition query_expression key query_string } | map-id map_id | limit
number_of_records | purge-on-eval { false | true } | next-eval-start-time
next_eval_start_time | next-eval-end-time next_eval_end_time
```

condition *query_expression*

AND フィルタでクエリ式を指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **contains**
- **ends-with**
- **match**
- **not-contains**
- **not-ends-with**
- **not-match**
- **not-starts-with**
- **starts-with**

key *query_string*

クエリ文字列を指定します。

0 ～ 512 文字の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、クエリに使用するフィルタパラメータを設定します。

cdl datastore show sessions summary in-filter

クエリに使用する OR フィルタパラメータを設定します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
filter { condition query_expression key query_string } | map-id map_id | limit number_of_records | purge-on-eval { false | true } | next-eval-start-time next_eval_start_time | next-eval-end-time next_eval_end_time
```

condition *query_expression*

OR フィルタでクエリ式を指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **contains**
- **ends-with**
- **match**
- **not-contains**
- **not-ends-with**
- **not-match**
- **not-starts-with**
- **starts-with**

key *query_string*

クエリ文字列を指定します。

0 ～ 512 文字の文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、クエリに使用するフィルタパラメータを設定します。

cdl datastore show status

CDL ステータス情報を表示します。

コマンドモード

EXEC

構文の説明

```
cdl show status [ db-name db_name ]
```

db-name *db_name*

データベースの名前を指定します。

文字列である必要があります。

デフォルト値は `session` です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、CDL ステータス情報を表示します。

cdl datastore slot

スロットポッドのパラメータを設定します。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl datastore datastore_name slot { map slot_partitions | notification { host
host_name | limit notification_tps | port notification_server_port } | write-factor
write_factor }
```

cpu-limit *max_cpu*

許容される最大 CPU をミリ CPU 単位で指定します。

200 ～ 32000 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 4000 です。

cpu-request *min_cpu*

必要な最小 CPU をミリ CPU 単位で指定します。

100 ～ 16000 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 2000 です。

go-debug *go_debug_variables*

GO デバッグ変数のカンマ区切りリストを指定します。

文字列である必要があります。

go-max-procs *max_cpu*

同時に使用する CPU コアの最大数を指定します。

1 ～ 32 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 4 です。

map *slot_partitions*

スロットに作成するパーティションの数を指定します。

1 ～ 1024 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 1 です。

memory-limit *max_memory*

許容される最大メモリをメガバイト（MB）単位で指定します。

512 ～ 131072 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 131072 です。

memory-request *min_memory*

必要な最小メモリをメガバイト（MB）単位で指定します。

256 ～ 65536 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 256 です。

patch-url *patch_url*

データストア アプリケーションのパッチをダウンロードするための URL を指定します。

文字列である必要があります。

replica *ha_instances*

作成する HA インスタンスの数を指定します。

1 ～ 4 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 2 です。

write-factor *write_factor*

正常な応答の前にスロットに書き込まれるコピー数を指定します。

1 ～ 4 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 2 です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、スロットポッドのパラメータを設定します。

cdl datastore slot notification

アプリケーションへの通知設定を行います。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl datastore slot notification { connection-count connection_count |  
dynamic-provisioning { false | true } | host host_name | limit  
notification_tps | max-concurrent-bulk-notifications max_bulk_task_notifications  
| notification-retry-seconds notification_retry_interval | port  
notification_server_port | remote-system-id remote_system_id }
```

connection-count *connection_count*

アプリケーション通知エンドポイントへの通知接続を指定します。

1 ～ 20 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 4 です。

dynamic-provisioning { false | true }

通知エンドポイントをアプリケーションによってプロビジョニングするか、静的設定を使用するかを指定します。true の場合、ダイナミック プロビジョニングが有効になります。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

host *host_name*

通知サーバーのホスト名を指定します。

文字列である必要があります。

デフォルト値は datastore-notification-ep です。

include-conflict-data { false | true }

指定すると、元のデータと要求からのデータを DB 競合通知とともに受信する設定が有効になります。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

limit *notification_tps*

通知サーバーの 1 秒あたりのトランザクション (TPS) を指定します。

1 ～ 2000 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 200 です。

max-concurrent-bulk-notifications *max_notifications*

CDL が同時に処理できる一括タスク通知の最大数を指定します。

1 ～ 20 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 1 です。

notification-retry-seconds *notification_retry_interval*

アプリケーションがタイマー切れ通知後に次の評価時間を更新しない場合に、CDL がアプリケーションへの通知を再試行するまでの秒数を指定します。

10 ～ 100 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 10 です。

port notification_server_port

通知サーバーのポート番号を指定します。

デフォルト値は 8890 です。

remote-system-id remote_system_id

リモートのシステム ID のリストを指定します。レコードの所有者システム ID がリモート ID のいずれかと一致する場合、CDL から通知が送信されます。

use-stream { false | true }

指定すると、CDL からアプリケーションに通知を送信するためのストリーミングを有効にします。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、アプリケーションへの通知設定を行います。

cdl datastore slot notification metrics

CDL スロットメトリックのパラメータを設定します。

コマンドモード [Exec] > [Global Configuration]

構文の説明 **metrics report-idle-session-type { false | true }**

report-idle-session-type { false | true }

アイドルセッションタイプを報告するかどうかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、CDL スロットメトリックのパラメータを設定します。

cdl datastore zookeeper

Geo レプリケーション用の Zookeeper を設定します。

コマンドモード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl zookeeper { data-storage-size data_storage_size | { enable-JMX-metrics  
| enable-persistence } { false | true } | log-storage-size log_storage_size  
| replica ha_instances | log-level { debug | error | fatal | info | trace  
| warn } }
```

data-storage-size *data_storage_size*

Zookeeper データのストレージサイズを GB 単位で指定します。

1 ～ 64 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 20 です。

enable-JMX-metrics { false | true }

JMX メトリックを有効にするか無効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は true です。

enable-persistence { false | true }

Zookeeper データの永続性を有効にするか無効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

log-level

Zookeeper のロギングレベルを指定します。ロギングレベルには、[debug]、[error]、[fatal]、[info]、[trace]、[warn] があります。ここで指定された変更は、Zookeeper ポッドのローリング再起動をトリガーします。

次のいずれかである必要があります。

- debug
- error

- fatal
- info
- trace
- warn

log-storage-size *log_storage_size*

Zookeeper データログのストレージサイズを GB 単位で指定します。

1 ～ 64 の範囲の整数である必要があります。

デフォルト値は 20 です。

replica *ha_instances*

作成する HA インスタンスの数を指定します。

次のいずれかの整数である必要があります：1、3。

デフォルト値は 3 です。

to-earliest

指定すると、並列ポッド管理ポリシーが有効になります。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、Geo レプリケーション用の Zookeeper を設定します。

cdl label-config

CDL ポッドのラベル設定のリストを設定します。

コマンド モード [Exec] > [Global Configuration]

構文の説明 **cdl label-config** *label_config_name*

label_config_name

ラベル設定名を指定します。

文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、CDL ポッドのラベル設定のリストを設定します。

cdl label-config endpoint

エンドポイントのラベル設定を行います。

コマンド モード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

endpoint **key** *label_key* **value** *label_value*

key *label_key*

ラベルキーを指定します。

文字列である必要があります。

value *label_value*

ラベル値を指定します。

文字列である必要があります。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、エンドポイントのラベル設定を行います。

cdl label-config index map

CDL インデックスのマップレベルのラベル設定を行います。

コマンド モード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

index map **map-id** *map_id*

key *label_key*

ラベルキーを指定します。

文字列である必要があります。

map-id *map_id*

マップベースのラベル設定を指定します。

整数である必要があります。

value *label_value*

ラベル値を指定します。

文字列である必要があります。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、CDL インデックスのマップレベルのラベル設定を行います。

cdl label-config slot map

CDL スロットのマップレベルのラベル設定を行います。

コマンドモード [Exec] > [Global Configuration]

構文の説明 **slot map map-id** *map_id*

key *label_key*

ラベルキーを指定します。

文字列である必要があります。

map-id *map_id*

マップベースのラベル設定を指定します。

整数である必要があります。

value *label_value*

ラベル値を指定します。

文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、CDL スロットのマップレベルのラベル設定を行います。

cdl logging

CDL ロギングパラメータを設定します。

コマンドモード [Exec] > [Global Configuration]

構文の説明 **cdl logging default-log-level** *default_log_level* **error-stack** { **false** | **true** } **sync-logging** { **false** | **true** }

default-log-level *default_log_level*

CDL モジュールのデフォルトのロギングレベルを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **debug**
- **error**
- **info**
- **off**
- **trace**

- **warn**

デフォルト値は **warn** です。

error-stack { false | true }

エラーログと連動するスタックトレースを有効にするか無効にするかを指定します。有効にするには、**true** に設定します。

次のいずれかである必要があります。

- **false**
- **true**

デフォルト値は **false** です。

json-logging { false | true }

json 形式でのロギングを有効にするか無効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- **false**
- **true**

デフォルト値は **false** です。

sync-logging { false | true }

同期ロギングを有効にするか無効にするかを指定します。有効にするには、**true** に設定します。

次のいずれかである必要があります。

- **false**
- **true**

デフォルト値は **false** です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、CDL ロギングパラメータを設定します。

cdl logging logger

各モジュールのログを設定します。

コマンドモード [Exec] > [Global Configuration]

構文の説明 **cdl logging logger** *cdl_module_name* **level** *default_log_level*

level default_log_level

各モジュールのロギングレベルを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- debug
- error
- info
- off
- trace
- warn

cdl_module_name

CDL モジュールの名前を指定します。

文字列である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、各モジュールのログを設定します。

cdl remote-site

リモートサイトのリストを設定します。

コマンドモード [Exec] > [Global Configuration]

構文の説明 **cdl remote-site** *system_id* { **db-endpoint** { **host** *host_name* | **port** *port_number* } | **kafka-server** { *host_name* *port_number* } }

system_id

リモートシステムまたはサイトの ID を指定します。

整数である必要があります。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、リモートサイトのリストを設定します。

cdl remote-site db-endpoint

リモート DB エンドポイントのリストを設定します。

コマンドモード [Exec] > [Global Configuration]

構文の説明 **cdl remote-site** *system_id* **db-endpoint** { **host** *host_name* | **port** *port_number* }

host *host_name*

リモート DB エンドポイントのホスト名または IP アドレスを指定します。

1 ～ 64 文字の文字列である必要があります。

port *port_number*

リモート DB エンドポイントのポート番号を指定します。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、リモート DB エンドポイントのリストを設定します。

cdl remote-site kafka-server

Kafka サーバーのリストを設定します。

コマンド モード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl remote-site system_id kafka-server host_name port_number ssl-port
ssl_port_number
```

ssl-port *ssl_port_number*

リモート Kafka ブローカによって公開される SSL ポートを指定します。

host_name

リモート Kafka サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。

1 ～ 64 文字の文字列である必要があります。

port_number

リモート Kafka サーバーのポート番号を指定します。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、Kafka サーバーのリストを設定します。

cdl ssl-config

SSL 設定パラメータを設定します。

コマンド モード

[Exec] > [Global Configuration]

構文の説明

```
cdl ssl-config enable { false | true }
```

enable { false | true };

SSL 設定を有効にするか無効にするかを指定します。

次のいずれかである必要があります。

- false
- true

デフォルト値は false です。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、SSL 設定パラメータを設定します。

cdl ssl-config certs

データベースエンドポイント固有の SSL 設定パラメータを設定します。

コマンドモード [Exec] > [Global Configuration]

構文の説明 **certs ip** *fqdn_ip_address* **ssl-key** *ssl_key_file* **ssl-ca** *ssl_ca* **ssl-crt** *ssl_cert_file*

host *hostname_ip_address*

外部ホストのホスト名または IP アドレスを指定します。

文字列である必要があります。

ssl-ca *ssl_ca*

CA 証明書ファイルの内容を指定します。

ssl-crt *ssl_cert_file*

SSL 証明書ファイルを指定します。

ssl-key *ssl_key_file*

SSL キーファイルを指定します。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、データベースエンドポイント固有の SSL 設定パラメータを設定します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。